

恵庭市子どもの生活実態調査から見える

## 恵庭市の子どもと家族の家庭生活や経済状況

子どもたちが夢と希望をもって成長していける社会をめざして

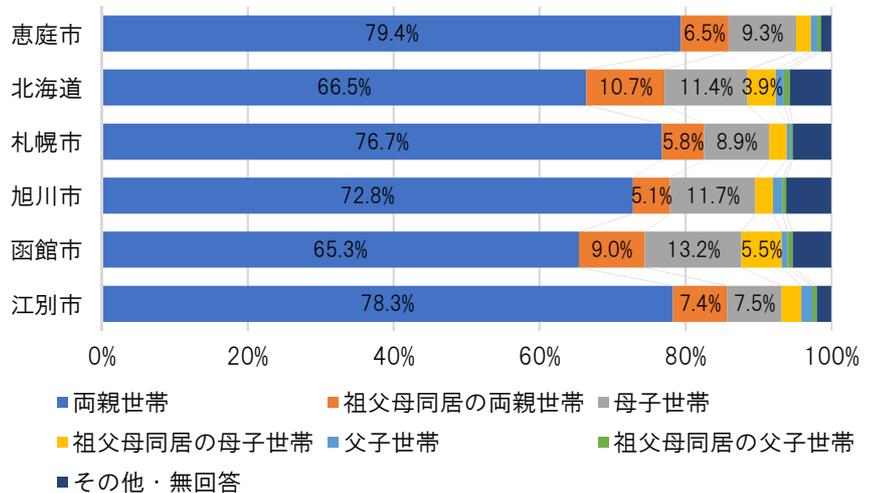
～子どもの貧困対策を総合的に推進するために～

恵庭市では、令和元年6月に「子どもの生活実態調査」を実施しました。調査対象は、市内小5、中2、高2の子どもと小2、小5、中2、高2の保護者を対象に実施し、約68%の方から回答をいただきました。その集計結果をもとに、作成しております。

### I 調査世帯の家族形態

北海道や他の自治体(札幌市・旭川市・函館市・江別市)と比較して、恵庭市の「両親世帯」の占める割合は、高くなっています。

しかし一方、ひとり親世帯、特に「母子世帯」をみますと、江別市が7.5%、札幌市が8.9%、次いで恵庭市が9.3%となっており、必ずしも低い割合ではありません。

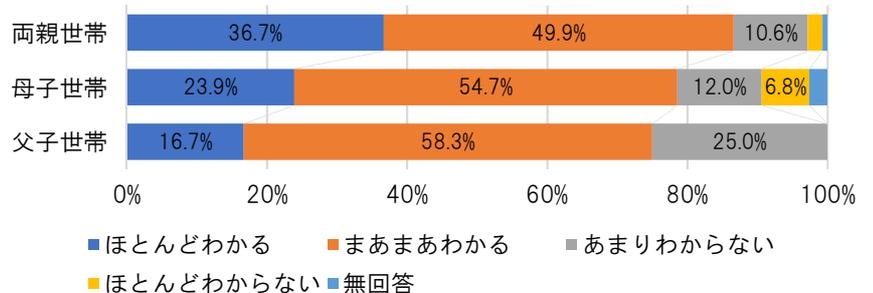


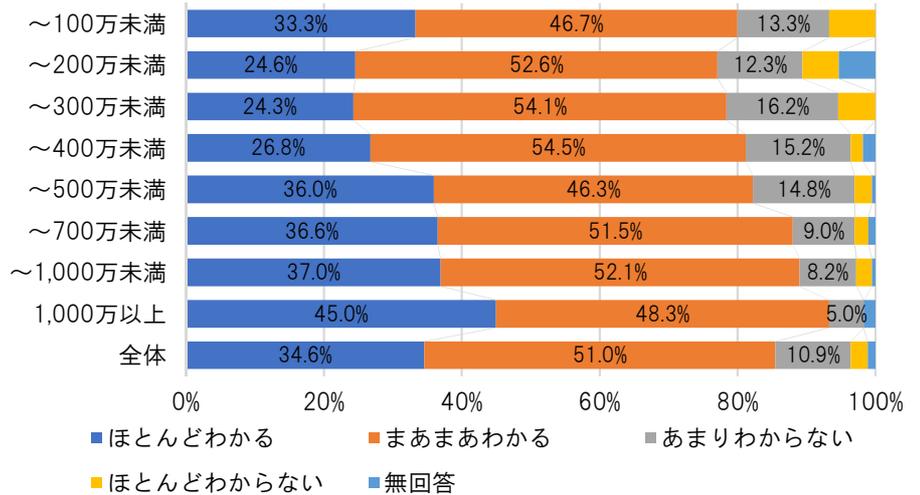
### II 子どもの教育

(1) 学校の授業でわからないことがありますか？

学校の授業の理解度についての自己評価では、「ほとんどわかる」「まあまあわかる」とする割合が、両親世帯と比較して、ひとり親世帯では低くなっています。

また、収入階層別では、世帯収入が下がるにつれ、「ほとんどわかる」「まあまあわかる」とする割合が、低くなっています。(次ページのグラフを参照)



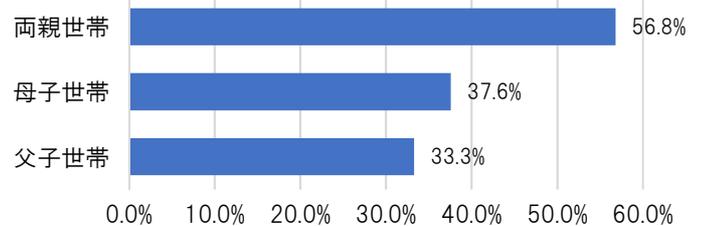


### (2) 勉強がわからないときに誰に教えてもらいますか？

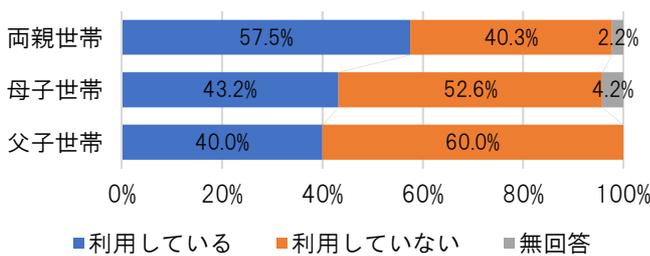
勉強がわからないときに教えてもらう相手は、「親」と回答した子どもは、両親世帯に比べ、ひとり親世帯では3割程度となっており低い割合となっています。

ひとり親世帯では、子どもの家庭学習をサポートする時間を確保することが難しい現状があり、そのことが数値に表れているといえます。

【勉強がわからないとき、親に教えてもらう】

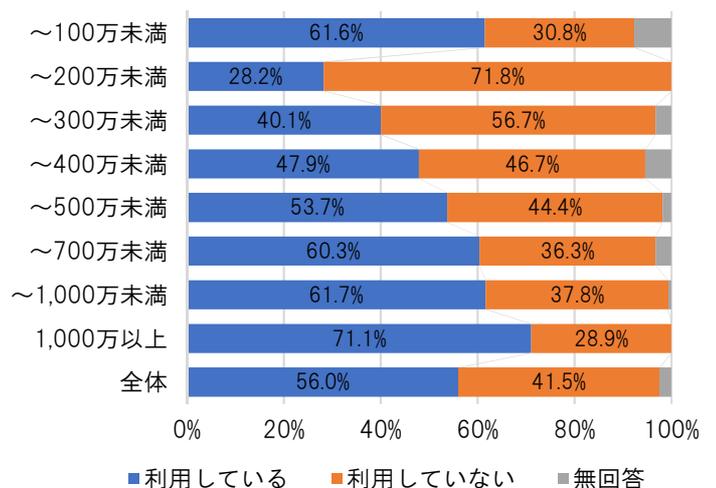


### (3) 習い事や学習塾、家庭教師を利用していますか？



学校以外の教育で習い事や学習塾、家庭教師の利用状況は、家族形態別でみると「利用している」と回答した両親世帯の 57.5%と比較して、ひとり親世帯では、割合が低くなっています。

収入階層別にみると、世帯収入が低いほど、「利用している」と回答した割合が低くなっています。

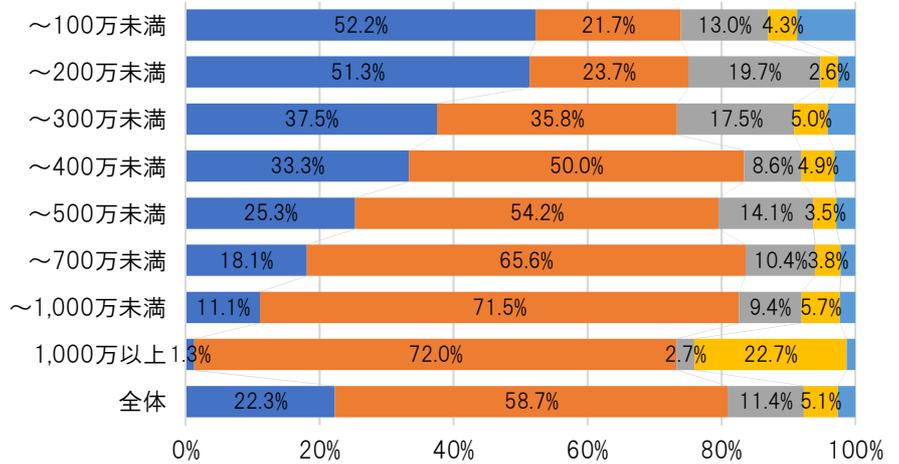


#### (4) 教育を受けさせるためのお金の準備状況

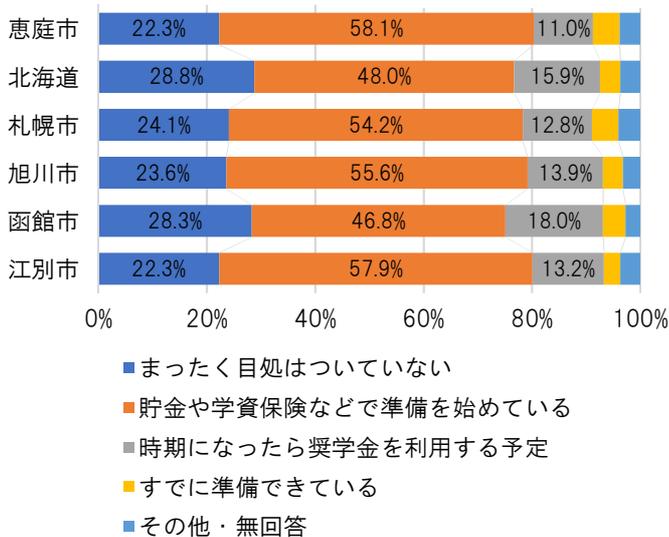
教育を受けさせるためのお金の準備状況について、収入階層別にみると、世帯収入が低いほど、「まったく目処がついていない」と回答した割合が高くなっています。

また、北海道など他の自治体と比較して、本市の「まったく目処がついていない」とする割合は、低くなっています。

【収入階層別集計】



【学年別集計の全体値】



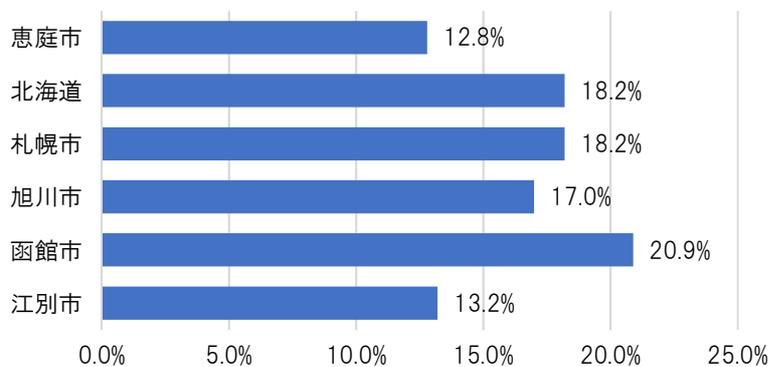
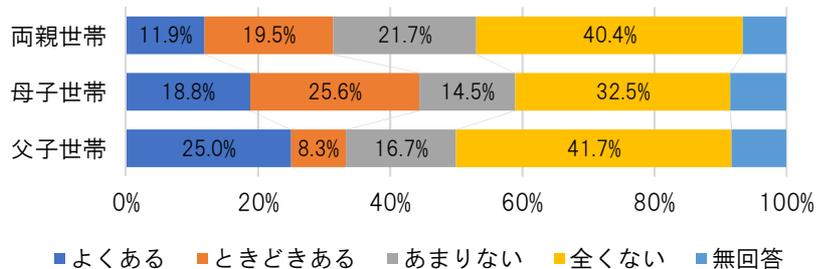
家庭の状況にかかわらず、全ての子どもが教育を受け、能力・可能性を最大限伸ばし、前向きな気持ちで夢や希望を持つことのできる社会になることが貧困の連鎖を断ち切ることにもつながります。教育の機会均等を保障するためにも、苦しい状況にある子どもたちを早期に把握し支援につなげることが大切になります。

### Ⅲ 生活状況

#### (1) 平日の放課後はひとりであることが多いですか？

平日の放課後の過ごし方で、ひとりであることが両親世帯と比較して、ひとり親、特に母子世帯では「よくある」「ときどきある」と回答した割合が高くなっています。

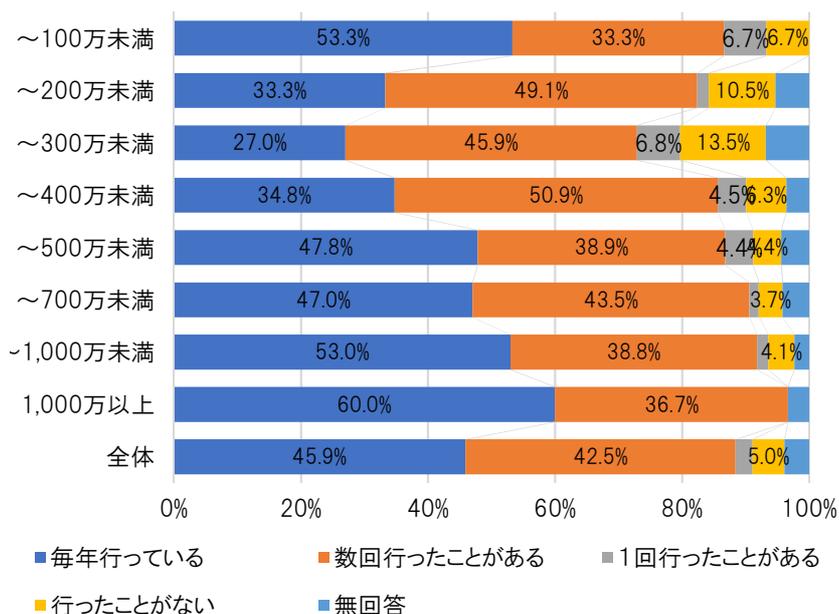
また、北海道など他の自治体と比較して、本市のひとりであることが「よくある」と回答する割合は全体で 12.8%となっており、最も低くなっていますが、1割以上の子どもはひとりで過ごしています。



#### (2) 親子そろって旅行やキャンプに行った経験は？

親子そろって旅行やキャンプに行った経験は、世帯収入が低い階層ほど、「毎年行っている」と回答する割合が低くなっています。

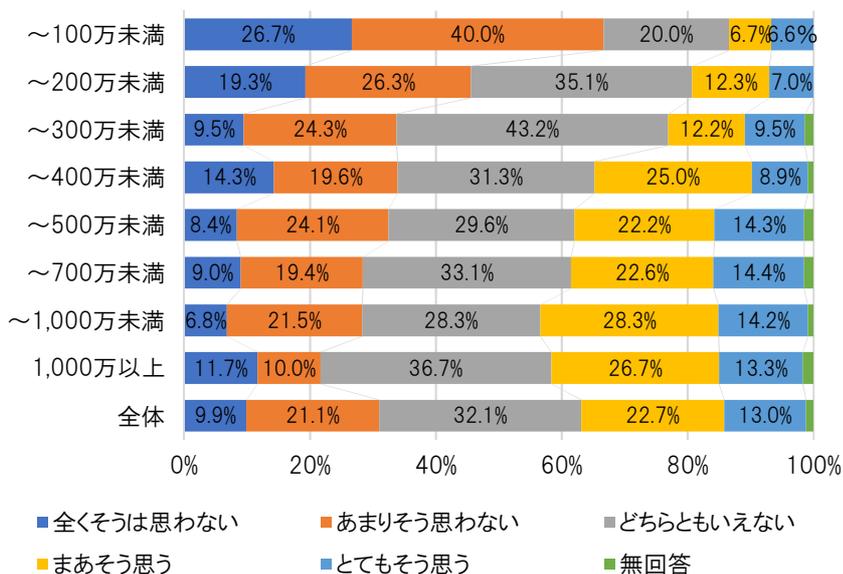
また、世帯収入 200～300 万円未満の階層では、「行ったことがない」と回答する割合が 13.5%と最も高くなっています。



### (3) 子どもの自己肯定感

子ども自身に『自分は価値のある人間である』と、どの程度感じているかを尋ねる問いでは収入階層別では、世帯収入が低い階層ほど、「全くそう思わない」「あまりそう思わない」と回答する割合が高くなっています。

このことから、家庭の経済的状況が子どもたちの心理に影響を与えていることがわかります。



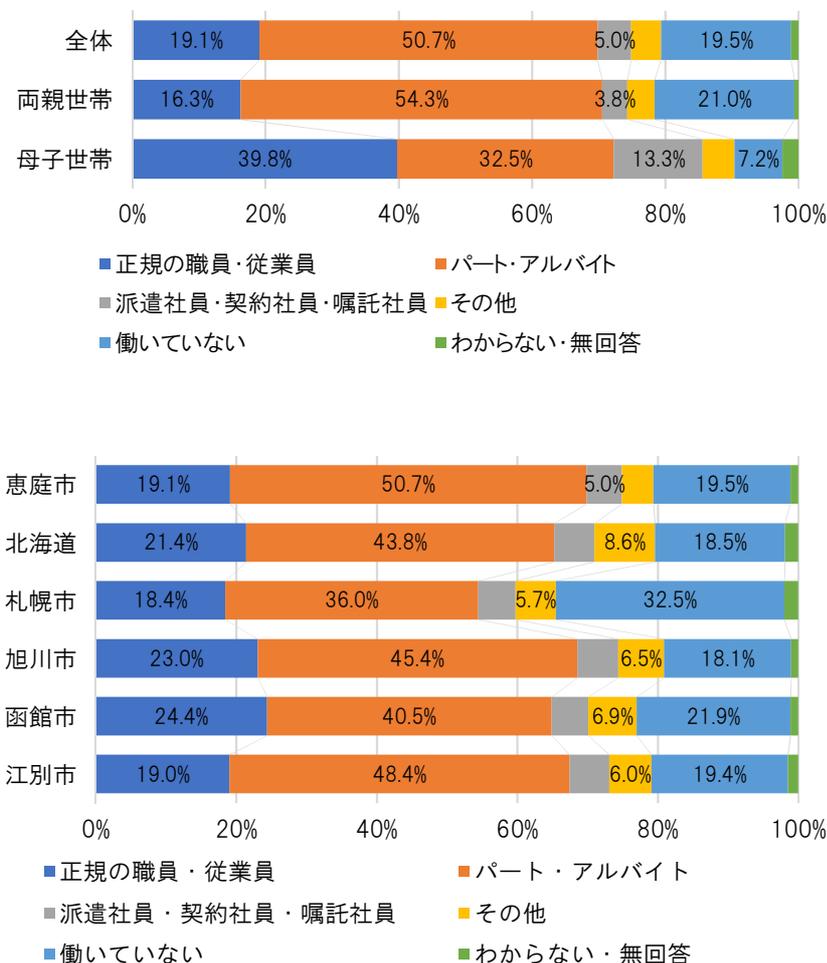
## IV 保護者の就労状況

### (1) 母親の働き方

母親の働き方では、家族形態別で見ると、両親世帯では「正規の職員・従業員」は 16.3%、「パート・アルバイト」は 54.3% となっていますが、母子世帯では「正規の職員・従業員」は 39.8%、「パート・アルバイト」は 32.5% となっています。

ひとり親家庭では、母親が家計を支えるため、正規の職員・従業員に就いている割合が高くなっているようです。毎日が忙しくなるために、子どもたちとの団らんや話し合いの時間が持てないなどの悩みが両親世帯と比較して高くなっています。

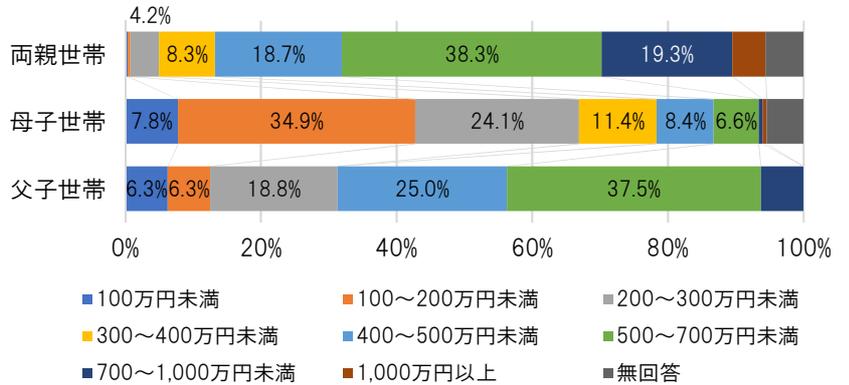
また、北海道など他の自治体と比較して、本市では、「パート・アルバイト」の割合が高く、「正規の職員・従業員」の占める割合が低くなっています。



(2) 家族の世帯収入について

家族の世帯の収入は、家族形態別では、両親世帯では「500～700万円未満」が38.3%、父子家庭では同じく「500～700万円未満」が37.5%と最も高く、母子世帯では「100～200万円未満」が34.9%と最も高くなっています。

なお、母子世帯においては、世帯収入が300万円未満の世帯の割合が66.8%となっています。

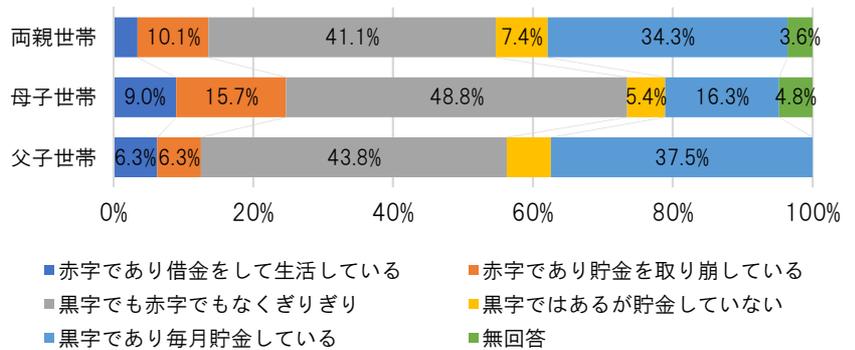


世帯の安定的な経済基盤を築く観点から、母子世帯の母の就労支援は重要です。しかし、就労支援に当たっては、収入面のみならず、家庭で家族がゆとりを持って子どもと接する時間を確保できるような適正な労働環境の整備も必要となってきます。仕事と家庭の両立をするために、家事援助や保育等のサービス、ショートステイ事業などの活用可能な支援を推進していく必要があります。

V 経済的支援

(1) 普段の家計の状況は？(赤字か黒字か)

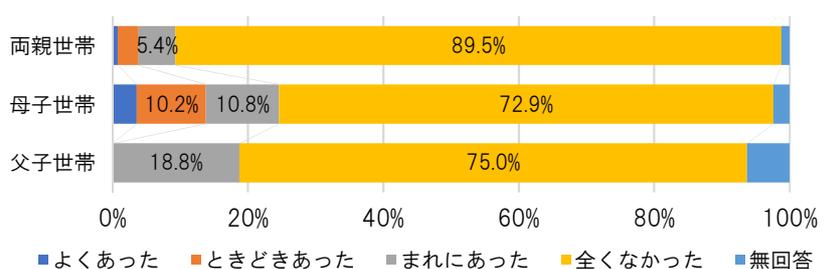
普段の家計の状況は、家族形態別にみると、母子世帯では、「赤字であり借金をして生活している」「赤字であり貯金を取り崩している」を合わせると24.7%となっており、母子世帯の4分の1の世帯が赤字と回答しています。貯金に回せる状況の世帯は、両親世帯と比較して半分の割合となっています。



(2) 経済的理由で食料が買えなかった経験は？

家族が必要とする食料が買えなかった経験は、母子世帯では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」とする割合は、合わせて24.6%となっています。

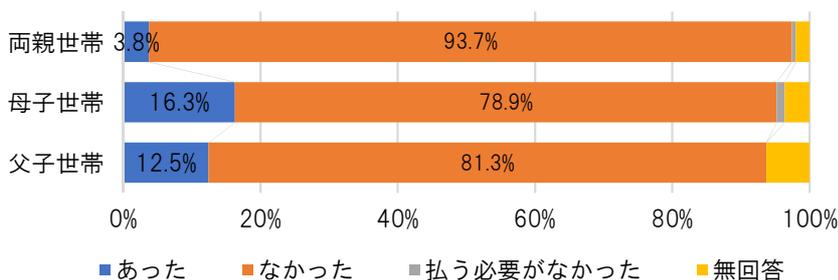
平成29年の国の調査では、34.9%となっていますので、本市の数値は、それと比較し低くなっています。



### (3) 経済的理由で電気、ガス、水道いずれかの料金が支払えなかった経験は？

電気、ガス、水道のいずれかの料金が支払えなかった経験は、両親世帯では「あった」とする割合は 3.8%、母子世帯では 16.3%と、父子世帯では 12.5%となっています。

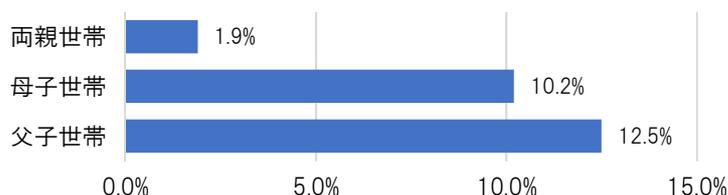
なお、平成29年の国の調査では、ひとり親世帯のうち過去1年間に経済的理由で料金の未払いが「あった」とする割合が、電気料金で 14.8%、ガス料金で 17.2%、水道料金で 13.8%となっています。



## VI 相談の状況

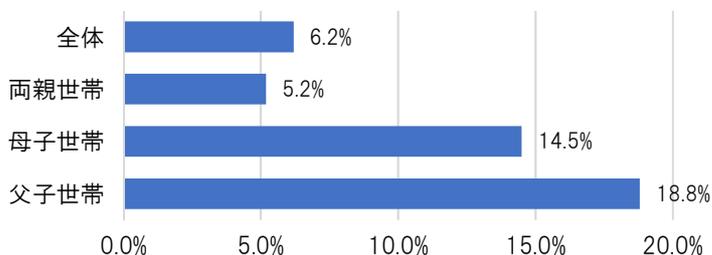
### (1) 保護者の悩みごとの相談相手はいますか？

保護者の悩みごとの相談相手で「相談する人はいない」と回答する人の割合は、両親世帯では 1.9%となっていますが、母子世帯では 10.2%、父子世帯では 12.5%と、ひとり親世帯では割合が高くなっています。



### (2) 子育てのサービス(子育て支援センター)の利用状況について、利用の仕方がわからなかった割合

子育て支援サービス、特に子育て家庭が交流できる場であり、子育て情報を得たり、情報交換ができる子育て支援センターの利用状況について、利用の仕方がわからないとする回答が、世帯全体の割合の 6.2%と比較し、ひとり親世帯では、2倍以上のポイントを占めています。



ひとり親世帯では、相談する人はいないとする割合が高い一方、子育て支援センターなど情報交換の場の使用情報が行き渡っていないことがわかりました。

子どもの貧困対策のために、様々な取り組みが広がる一方で、現場には今なお支援を必要とする子どもやその家族が多く存在し、その状況は依然として厳しい状況が続いている背景には、相談支援に結び付いていない現状が想定されます。こうした子どもたちや家庭を早期発見、早期対策を講じていく体制づくりの推進が必要となります。

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることなく、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図り、家庭、地域、社会が一体となって子どもの成長を支えていくことが必要となります。子どもの貧困対策は多岐にわたっており、貧困対策を総合的に推進するためには、教育や福祉、医療等関係する各部署が連携し、協力しながら施策に取り組むことが重要となってきます。

☆他市の類似調査を実施した時期☆

- ・北海道……………平成 28 年度実施
- ・札幌市……………平成 28 年度実施
- ・旭川市……………平成 29 年度実施
- ・函館市……………平成 29 年度実施
- ・江別市……………平成 30 年度実施

【問合せ先】（2020.3 製作）

恵庭市子ども未来部子ども家庭課

電話 0123-33-3131（内線 1234）

FAX 0123-33-3137

E-mail: kodomokatei@city.eniwa.hokkaido.jp